

「新しい時代の学校創り 中間報告」に関する意見

資料 5

ID	【教員の資質・能力の向上】について	【情報活用能力育成カリキュラム】について	【学校DX化の推進】について	【教育環境の整備】について	【生成AIの利活用】について	【その他】中間報告全般について
1						
2						
3	特にありません	特にありません	特にありません	特にありません	特にありません	特にありません
4	生徒指導力についても教科指導力についても、まずICTがあるのではなく、あくまでその指導の中で何をしたいのか、その上でどんな場面でICTを使ったほうが有効なのかを考えることが本筋だと思います。ですからICT、特にAIの活用については知る機会が必要で、どう使うことができるかは研修等が必要だが、常に前提となる生徒／教科指導力についての研修が本来必要なものであると思う。	今後の社会に生きる人材育成のためには必要なことだと思います。	どこで校務の負担を軽くしたり、効率的に情報共有したりすることができるかを検討するのは良いことであると思う。また良いツールやシステムの使い方があれば台教研などで共有してもらえるとういと思う。	区内施設などについては、区の特徴を生かした教育で得るものが多い。一方、関係行事が多すぎると授業やそれ以外の学校行事を圧迫することがあるので、ある程度の精選は必要だと思う。	今後AIの活用は必須だと思うが、安易にAIに頼らず自分で考える力を育てることはもっと必要だと思うので、いつからどのように使用させるかは考える必要があると思う。	特にありません
	まずは予算を確保し端末しっかりと準備してほしい。		とても良いことだが台東区はそもそもICTの活用が遅れているので一般的な他区のレベルまでにしてからでいいのではないか	パソコンを開かない授業が多すぎる全教員がパソコン使用し授業を行うと良い。 合理的配慮が必要な生徒もさまざまな支援が考えられる	積極的に活用すべき	とても良いことだが専門的な用語なのか内容がわからないところが多い。もう少し研修などを行い報告の内容が入るようにしてほしい。
5						
6	台教研の中でICT部会を作って、区内で情報共有ができるようにになれば、より資質・能力が向上するのかなと思います。		推進校の実践事例を知りたいです。			
7	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし	なし
8	フューチャースクール指定校の教員としての意見です。本中間報告では、「教員がICTを使用して」指導する能力と、「子供にICTを使わせて」指導する能力が報告されていますが、より根本の指導力(授業力、学習指導力、生徒指導力、生活指導力、など)がどう変化しているのが本質であり、調査すべきではないのかと思いました。ICTは手段であり、目的・目標は「児童の人格の完成へ近づくこと、各教科における目標を達成することだと思っております(職場で、そうよく言われてきました)。指導手段の1つにICTをもつ教員が増えることは良いことだと思います。ただ、児童の学力(知識だけでなく思考力も)がどの程度変化したのか、児童の学校生活がどのように変わったのかまでを含めて、教員の資質・能力の向上がわかんと思いました。ここからは私見ですが、職場に入ってくる若い教員は、比較的ICTに抵抗感がない人が多いです。そのため、より基礎的な授業力の向上(単元計画や授業展開など)について、力を入れたほうが、より子供たちのために本質的な研究になると思いました。	フューチャースクール指定校の教員としての意見です。まず、『「情報活用能力＝パソコンポチポチ力」と解釈しない』ように、強く先生方に示していく必要があると思います。つぎに、カリキュラムは国や都が出しているものに乗っかればよいと思います。現場に、各学校で作ったり検討したりしている余裕はありませんでした。本校でも、2年間の研究の中で、そんな余裕はありませんでした。区教委よりも大きな媒体で示されているものに乗っかることも、教員に負担をかけないためにも必要だと思います。先生方の働ける時間は限られているのに、フューチャースクール指定前も業務が逼迫していたのに、TAITOフューチャースクールの目指しているものがたくさんありすぎて、広く浅いものになってしまっているように思います。この研究の最後に、もし情報活用能力育成カリキュラムができあがったとしても、それはすぐ形骸化するように思います。	フューチャースクール指定校の教員としての意見です。学校DX化は確実に進みました。しかし、指定校になった初年度、大変な苦労がありました。今まで使っていたMicrosoftのワードやエクセルを、グーグルのドキュメントやスプレッドシートに変換するのは、全教員、残業時間を増やして行ったことです。それでもいまだに、Microsoft依存の先生もいますし、ワードを変換すると書式がおかしくなるため、PDFとして共有して下る方もたくさんいます。それでは、共同編集がうりのグーグルにしている意味がありません。もはや、Microsoftでも共同編集はできます。チームスでチャット機能も使えます。グーグルの方が、クラウドベースであったり、安かったり、直感的であることは理解できます。しかし、この約20年使い慣れていたワード・エクセルを基本として業務を進めて、MicrosoftでできるDXを広げたほうが、現場に負担が少ないと思います。先生方の働き方改革が進み、全員が定時退勤できるようになった時が、グーグルへの移行を考え始めるタイミングだと思います。少なくとも、上野小が経験した、グーグルベースの業務への移行の苦行を、区内全校の先生が味わうのは、反対です。	フューチャースクール指定校の教員としての意見です。校舎についてはそう簡単に建て替えられるものではないため、教室の形や学校全体の形については、変化させることが難しいと思います。自分は、オープンスクール型の教室より、片廊下型の教室の方が好きです。ただ、オープンスペースを活用して、学年児童が全員集まったり、教室ではやりづらいダイナミックな学習ができたことも事実です。自分の提案としては、基本、片廊下型の教室を作りつつ、学年に1つ広いスペースがあるような校舎を希望します。本校では、ランドセルロッカーなどのロッカーを動かすことで、より流動的に教室内の環境を変えていましたが、そういうことは建築の専門家がやらないと、転倒のおそれ、しては子供の怪我につながるのではないかと思います。	特にありません	教員が定時出勤・定時退勤できることを、本当に強く強く強く望みます。上野小では、21時、22時、23時までお仕事をされている方が複数人います。そうしない仕事は回らない状況です。土日もグーグルチャットが動いています。先生方にも家庭があります。自分の家庭を犠牲にして働いている状況です。早く帰れない・仕事が多すぎることを理由に、今年度で異動された職員が3人います。TAITOフューチャースクールにも「余白(ゆとり)の創出」がかかれています。現状では、業務時間7時間45分の中に、1秒も余白はなく、むしろ毎日、2時間も、3時間も、4時間も残業している状態です。(持ち帰り仕事や土日の来校も含む)このままでは、台東のフューチャーは、先生方が疲弊するままです。ぜひ、在校時間を調べたり、アンケートを取ったりして、現状把握をしてください。そして、先生方が少しでも早く帰れるような施策をお願いします。それはグーグル導入などの現状の代替の提案や効率化の提案ではなく、何か業務を削ったり、マンパワーを増やしたり、そのような直接的に効果のある施策であることを期待します。
9	各校の研究主任や教務主任などでクラスルームやチャットルームを開設し、横のつながりをもった情報共有ができる場を作りたい。先行事例や実践事例、困り感等の共有により区としての底上げにつながる。	教科「情報」の開設は必要。タイピング力向上やプレゼン技能の向上、情報モラルの理解等、小学校6年間、中学校3年間を通じて、段階的に理解・習得できるよう、カリキュラムに柔軟性をもちたい。	校務系と学習系の端末は早急に統一してほしい。校内では、学習系をいつでも持ち歩くことを基本としている。	可動式のを増やすと、学習環境に柔軟性が出る。	校内では、notebookLMを活用し、会議中音声で記録し、議事録にまとめている。同時に資料もソースとして載せることにより、必要な情報を後からでも抽出することができる。	本校では、デジタルノートアプリ「メタモジ」を活用している。即時の見取り、児童間の他者参照、スライド作成、デジタルノート、リンクの共有、新手的の一斉指導において、とても効果的であり、1年生から活用実績がある。ぜひ、区全体として、取り入れていただきたい。
10	校内研究会、校内研究授業の他校への公開。		推進の必要性和個人差の問題。また、学校内外でおこる課題への対応が必要になると感じている			
11					生徒の利活用については慎重な判断をお願いしたいと思います。	
12						
13						
14	特にありません。	特にありません。	特にありません。	特にありません。	特にありません。	特にありません。
15						
16						
17	働き方改革ではなく、働きがいの時代ともいわれます。若手の職員が増えている中でもスムーズにストレスない学校環境づくりを進めていければと思います。	特にありません。	Teamsの運用に慣れた来たときでのGoogleworks導入を今後、どうスムーズに運用変更していくかを考える必要があります。ICT支援員にも大いに協力していただく必要を感じます。慣れるまでの期間が大変なので、うまく運営していきたいと思います。	特にありません。	特にありません。	特にありません。
18	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし
19						
20	個人により資質に差があるので、研修の機会の充実を望みます。					
21						
22						
23					有効的な活用のために気をつけなければいけないことなど、しっかり考慮して活用していきたいと思います	
24	特にありません。	特にありません。	教員用のスマートフォンを配布していただきたいです。	特にありません。	現状の対応で助かっています。	
25	働き方改革が進む中、長時間の研修が難しくなっていると感じる。 他地区への異動によって、端末や環境が変わる負担も大きい。		現在、校務系端末の内部環境(C4th)と外部環境、学習系端末、マイクロソフト、グーグル の 2 台の端末と5つの環境でのPC作業をしている。端末の一台化や環境の統一をぜひ進めていきたい。	オープンスペースや可動式家具を活用し、学習活動に応じて柔軟に空間を使い分けることで、学習展開の個別化、多様化を図ることができてよい。一方で、可動式家具等は高額であり、令達予算内で購入することは難しい。	これまではCopilotを中心に利活用してきた。今後、Gemini (LM) 等も活用したい。	
26		本校では、まずはルールを守って使うということを徹底させたい。			資料やスライド作成など(NotebookLM等)は、実際にやり方を教えてもらえるなら本校でも取り組めると思う。	
27						
28	ICT活用能力の差が教員間で開かないよう、操作スキルの習得だけでなく、それらを活用していかに授業を改善するかという視点での研修を希望します。校内での若手教員への伝達講習に加え、他校の先進的な活用事例を短時間の動画等でオンデマンド視聴できるような仕組みがあると、多忙な中でも学び続けやすい環境になると考えます。	児童が一人一台端末を「文房具」として使いこなすためには、各教科の指導計画の中にタイピングや情報モラル、データの整理方法などを系統的に組み込む必要があると考えています。特に低学年からの基礎的な操作習得が、高学年での探究学習の質に直結するため、学年ごとの到達目標を明確にした区統一の指標や教材があると、より指導がスムーズになると感じます。	校務の効率化において、Google Workspace等のクラウドツールの活用は不可欠だと感じています。現在は共有ドライブでの文書管理やスプレッドシートによる同時編集を進めていますが、依然として紙ベースの決裁や二重入力が発生している場面もあります。今後は「C4th」などの校務支援システムとクラウドツールの役割分担をさらに明確にし、教員がより児童と向き合う時間を確保できるような、シームレスなシステム連携の強化を期待します。		授業準備(教材作成のヒントや校外学習の下調べ)や、通知表の文面案の作成など、教員の業務補助としての活用に大きな可能性を感じます。一方で、児童が利用する際のガイドラインや、個人情報の取り扱いに関する具体的なルールが現場レベルでまだ浸透しきっていない懸念もあります。台東区として、安全に活用するための具体的な事例集や研修機会の提供を継続していただきたいです。	
29	・台東研に「情報教育部会」を設けるなどして、リテラシーの高い教員や資質、能力の高い教員を集める。 ・自治体として契約しているサービスの選定を行う。(現状では、正直使いづらいサービスを採用していたり、一本化が図れていなかったりする現状があるため)ロイロノートがとても使いやすく、広い自治体で採用されています。	区として、共通した情報活用能力育成カリキュラムを示すべきだと考える。 学校の実態によって多少異なることはあると思うが、各学年で定着させたいモラル・資質・能力はある程度同じはずでず。	教員の仕事の大半は、校務ネットワーク環境下で行われるので、校務PCがネットワークにつながる必要がある。また、成績関連の処理や所見なども、学校名を表示しない・名前はいニシャルにするなどの対応を前提として、生成AI (Gemini や Notebook LM) に投げることができるようにするとDX化の改善が図れると考える。	正直、配備されているDynabookではまともに作業ができない。(そもそも小学生にノートPC・WinOSは不向きである)メモリやOS、カメラ性能、操作性、トラブルシューティングなどを踏まえても、iPadの方が学習者・指導者ともに使いやすく学校現場には適している。	6)と同じ。 NoteBookLMを活用することを許可していただければ、DX化やICT推進が大きく進展すると考えます。 個人情報漏洩の懸念がされますが、正直に言えば、仮想デスクトップ環境下に格納されている各種データもなおワーク上に存在しているわけなので、漏洩の可能性がないわけではありません。 悪意のある第三者が不正にその情報を得ようとした場合、Googleのサーバーに保存されているデータと台東区の仮想デスクトップ環境下では、どちらの方が漏洩する可能性が高いかを考える必要があります。 また、入力した内容やアップロードしたデータがAIの学習に利用されるのではないかという懸念も、設定から拒否することができます。服務事故は決して起きてはなりませんが、制限してばかりでは、教員の活用能力やモラルは育まれないと考えます。台東区のセキュリティポリシーが広く周知されていないことも、発展の課題だと考えます。学校現場に向けて、このようなケースはOK、これはダメをはっきりと示していただけると幸いです。	特になし。
30	生徒に指導できるよう自分のスキルを向上させたいと感じています。また、授業に関係のない動画を見たり、ゲームをする生徒への注意が必要になるため、有効な対策を教えていただけるとありがたいと思います。	いいと思います。	時代の要請に合っていると感じます。	小学校から情報活用能力が備わっており、教育環境が整っていると感じています。	生成AIで作文やレポートを提出されるケースの見極めや評価についてアドバイスいただきたいと思います。	いいと思います。
31						

	成功事例だけでなく、「これに失敗した」「設定に手間取った」という失敗事例を気軽に共有できる環境を作る。これが、苦手意識のある教員にとってのハードルを下げることに繋がると考える。	「学校間・個人間での差」は、教員側の「何をどこまで教えられるいか」という共通指標がないことに起因していると考えられる。 児童・生徒向けの習得基準を明確化し、「3年生までにローマ字入力ができる」「5年生までにスライドで共同編集ができる」といった、全校共通の具体的なマイルストーン(ステップ表)を作成することで差が縮まると考える。	セキュリティを担保した上で、校務も授業も端末1台で作業することができれば仕事の効率がアップすると考える	Wifiがどの教室でも快適につながるようにしてほしい。また複数台がアクセスしたときに固まってしまうこともある。また、タブレット保管庫の出し入れが不便であり、充電コードの配線も複雑である。自分の席で充電できる環境や、保管庫を複数個に分けることで使い勝手がよくなると考える。	現在、生成AIは事務作業(議事録等)がメインであるが、最も負担の大きい「評価・所見」の下書き作成にAIを活用できるガイドラインとツールを整備することで、働き方改革につながるかと考える。
32					
33					生成AIについては、子供たちの方が上手に活用しているようであり、教員側の理解と活用方法の精選が必要であると思う。 児童生徒のAI利用については、AIについて外部からの講師を招き講習を行う必要があると感じる。 自分の考えを深めるために使うよりも、考えることが面倒だという理由でとりあえずのAI使用に流れてしまう生徒が現状多数いる。
34	研修だけでなく、校内での連携が大切だと思いました。	タブレットの管理の仕方について、モデル校の意見が聞きたいです。	特にありません。	学校内の設備が古かったり、故障していることが大きな問題だと思うので、すぐに取り組んでください。	特にありません。
35	T研修をさらに拡充すべきだと考えます。あわせて、ICTリテラシーの向上も急務です。昨今、新入社員による社内情報のSNS流出が相次いでいるというニュースもあり、適切な注意喚起と教育が欠かせません。 また、現在は「協働的な学び」が重視されすぎている傾向にありますが、AIを活用した「個別最適な学び」にも目を向けるべきです。AIであれば、忘却曲線に合わせた反復学習により、基礎学力の定着を効率的に図ることができます。こうした個人の習熟度に寄り添った学習活動も、積極的に取り入れるべきではないでしょうか。	情報活用能力を育成するためには、その土台となる基礎学力の向上が不可欠です。特に昨今、児童生徒の国語力低下は看過できない状況にあります。 先日参観した社会科の研究授業でも、「新田(しんでん)」という語句が読めない、あるいは教科書の内容を十分に読み取ることができない生徒が見受けられました。情報の収集や分析を行う以前に、まずは言語能力をしっかりと養う必要があると痛感しています。	話し合い活動を通じた「協働的な学び」には大きな意義がありますが、同時に、日々の個人による学習の積み重ねも学問には不可欠であると考えます。 対話によって広がる学びがある一方で、知識を定着させ、思考を深めるためには、個人がじっくりと課題に向き合う時間が欠かせません。集団の活動と個人の探究、その両輪のバランスを重視すべきではないでしょうか。	現在の受信側の生徒からは「音声が届き取りにくい」「板書が見えない」といった声があり、学習環境として厳しい状況にあります。ピンマイクによる音声品質の改善や、広角カメラおよび高精細な板書ズーム機能の整備など、対面授業と遜色のない情報伝達を可能にするICT環境の構築を提案します。	単なるLLM(大規模言語モデル)の活用に留まらず、AIエージェントや「Vibe Coding」の手法を取り入れることで、さらなる業務効率化が期待できると考えます。 例えば、旧年度 of ファイルを新年度の年間行事予定表に基づいて自動更新したり、日付と曜日の整合性をチェックさせたりといった、定型的なファイル整理をAIに代替させるスキルやノウハウの蓄積が重要です。 具体的なツールとしては、開発環境を効率化する「Claude Code」の導入や、Excelでの高度なデータ処理を可能にするアドオン(Claude for Excel等)の活用を提案します。
36					
37	情報教育について、子供たちの実態に合わせて活用ができるよう、理解を深めていきたい。	積極的に研修を受けたり、実践をしていきたい。			
38	校内研修の充実	小学校で情報活用能力が必要なのか疑問です	賛成ですが、教員が行うことには負担しかありません。専門員の数を増やしてください。	全ての環境を整えてほしい。	現在、児童がアプリを使用できません。
39					特にありません
40					
41					
42	ICTの利用の仕方を実際に授業見学などで学びたい。	学年や学校行事等で積極的にタブレットを使っていきたい。	様々な校務をDXできないか検討し、積極的に取り入れていきたい。またそのようなアイデアもいただきたいです。		内容の要約やアイデアを生み出すときに大いに活用できると考えているが、生成AIでつくったものを一度精査する必要はあると思う。また、自分で考える力や自分の言葉で書く力は衰える恐れがある。
43			利活用の例を学校間で共有できると良い。	Wi-Fiが重く、タブレット学習をすると無駄な時間が取られてしまうことが多い。	読書感想文や作文を家庭で書かせることに限界を感じる。文章生成AIの使用を禁止しても、検証する術がない。今までと同じ量のものを学校で書く時間を確保するのは非常に難しい。
44	個人のモチベーションに委ねられているため、共通の目標などがあると良いのではないのでしょうか。		学校内でネットワークが快適に繋がらないと当たり前のように使用できないので、環境面の整備は必要だと思います。	学校内でネットワークが快適に繋がらないと当たり前のように使用できないので、環境面の整備は必要だと思います。また困った時にすぐに支援員の方に見てもらえるように配備していただきたいです。	より良い教育活動の実現に向けて、これからも期待したいです。
45					
46	各学校でICTの活用を含めた研究授業や研修等を推奨していくと良いと思いました。			各教室にテレビ、プロジェクター、スクリーン、書画カメラ等が整備されていると良いと思いました。	書類の作成や情報の収集、企画の発案、教科指導等で生成AIは大いに役に立つと思いました。
47					
48					
49			実施案など紙媒体として確認したいことも多いので、メリットデメリットを考慮しながら進めたい。		
50					
51	ICTを実際に活用したワークショップ形式の研修を受けてみたい。オンデマンド研修など、自分のペースで学べる環境の整備があるとうれしい。	各校や個人によってばらつきがでてしまうため、生徒が受ける教育の質に差が出てしまう可能性ある。まとめて整備や共有を行うとよいと考える。	学校ごとの判断に任せるのではなく、どこでも使える共通のルールがあるとよいと思う。	特になし	活用できると業務を効率よく進められるが、様々なツールに触れる機会がすくないため、使用方法がわからないままになってしまっている。実際の活用例などが知れると活用しやすくなると考える。
52					
53	若手からベテランまで、校務や授業でICTを日常的に活用できるように、短時間で実践的な校内研修を定期的実施する仕組みが必要だと考える。また、先進的な活用事例を学年を超えて共有する機会を設けることで、組織全体の指導力向上に繋がりたいと考える。	各教科の指導計画の中に情報活用能力の育成を具体的に位置付け、学年間の系統性を明確にする必要がある。特に、デジタルツールを用いた情報の比較・分類・発信が、学習効果をどう高めたかを適切に評価する共通したシステムが必要である。	出欠確認や配布物のデジタル化をさらに進め、教職員の事務負担を軽減することで、児童生徒と向き合う時間を確保したい。また、会議資料の共同編集などを通じて、意思決定をスピーディにすることと情報の透明化を図るべきだと考える。	クラス全員が同時に動画を視聴する際、通信が不安定になることがあります。スムーズな授業展開のためにも、通信の強化や、故障時の代替機が迅速に手配できるサポート体制の充実をお願いしたい。	まずは教職員が校務において安全に活用できるガイドラインを明確にし、教材研究や通知表の所見案の作成支援などに役立てることで、業務効率化の可能性を探りたいです。児童生徒への活用については、リテラシー教育とセットで慎重に検討していく必要があると考える。 生成AIは校務でも活用できることがいろいろな場面であると思うので、ぜひ活用していきたい。 AIを使う事により、学習基盤が整い、自己解決に向けて上手に活用できると良い
54					
55	教員の資質・脳力の向上の為、OJTを活用して底上げをしていきたい	正しい情報収集や取捨選択能力の向上を目指し、個別最適な学びをして欲しい	子どもの個性に沿った教育を提供出来るのはとても良い	子どもたちが他者と協働して探求や学びを行う為には、環境整備は不可欠だと思う	
56	ICTに関する資質能力の向上のためには、とにかく使ってみることが重要だと思います。使ってみようと思うためには、使いやすい環境を整備し、トラブルや機器の不足等使いにくさをなくしていくことが重要だと考えます。		デジタル化の特徴をよくとらえつつ、効果が高い部分についてDX化を進めていくとよいと思います。直接のコミュニケーションなど、必要な非デジタルな部分もある。		
57					
58		時間とお金をかける	必要性和効果が認識できれば、加速すると思います。		教員は、積極的に使用すべきだと思います。必ずチェックは必要です。
59	学びの伴走者としての研究など、教員側の意識改革がかなり必要だと感じます。	セキュリティ及び情報モラルとの両輪での育成が不可欠だが、現状決まったカリキュラムがあるわけではなく、生徒ごとにばらつきがあるのが現状。どの年齢でどこまで身に着けるのかを共有できるとよいと感じます。	本校ではグーグルワークスペースを活用しているが、他校では違うこともある。兼務等で他校に行く際などに戸惑いを感じます。		
60					
61	「あまりできない」の回答が横這いになっているところに注目をすると、苦手意識をもつ教員と生徒が一定数おり、課題であると思う。		小学校と中学校の平均値の差を縮めたいところである。		
62					
63	これまでの教員主導の授業から児童主導の授業に変えていくためには、教員自身のマインドを変えていくことが何より大切で、これまでに取り組んでいなかったことにも積極的に挑戦していく必要があると思いました。		よいと思います。Googleは慣れるのに時間がかかりましたが、慣れるととても使いやすくわかりやすいともいえました。デジタル化(レコード→CD)とDX化(CD→スマホ)の違いを意識した上で、授業の中に取り入れていくことが大切だと分かりました。	環境をどのように整えていくかで児童の学習に向かう姿勢も大きく変わるので、一斉でも個別でも協働でも児童の頭がフル回転するような工夫をしていきたいと思っています。	生成AIにたよりすぎない使い方ができるように指導の仕方を考えていきたいと思いました。 生成AI自体は非常に効果的だと思いますが、児童が使用する場面は配慮が必要だし、ただ楽になるから使うというマインドにならないよう気を付ける必要があると思います。
64					
65					
66		子供たちにパスワードやIDの管理の仕方など、徹底して指導する必要がある。低学年はパスワードが自分で考えたものを忘れてしまう。同じパスワードだとなすましの危険がある。子供同士のチャット機能は、まだ使用できないようにした方がよいかと思う。	校務改善として、どんどん活用していく必要がある。クラウドを使うことで、どこでも校務分掌の仕事ができる環境はありがたい。資料のリンクや動画、写真のリンクを貼れることで、データ探しが減り、引継ぎなども簡単になった。ただ、使いこなせるようになるためには、すぐに聞ける環境を整えてもらえるかと前向きに活用ができると思う。		
67					
68					
69	授業中にICTを活用する能力や児童生徒にICT活用を指導する能力について、自分自身、一年前よりは向上したように感じるが、まだまだ苦手と感じしまうときも多いので、今後とも力を付けていく必要があると感じた。	春日井市立出川小学校と高森台中学校のように、9年間を見通した指導計画を各校で作成し、学校や個人で差が生まれないように、研修などで指導計画の内容を確認し合うことも大切だと感じた。	小学校間でも、学校DX化に452ポイントも差があることに驚いた。学校DX化を推進している学校を参観するなど、どんな各校でできるところから取り入れていく必要があると感じた。	昨年度、オープンスペースを上手く活用するためにロッカーの配置を考えたり、児童机を常に3人グループの形にしたりと、子供たちが学習しやすい環境を考え、教室を見せ合う時間があり、とても勉強になった。今年度も学習環境について考えていきたい。	まだ十分に使いこなせていないと思うので、生成AIを上手に活用し、授業に役立てたいと思う。
70	教師自らが研鑽する必要がある。そのために目的に応じた、学びたい研修に参加できるようにしてほしい。(私学では許可されれば、費用も旅費も出ました。)	教材で使えるソフト、アプリを充実させてほしい。国語科は縦書きである。		必要な教材、使いやすいアプリやソフトを入れてもらえるとうりよく活用できると思う。(例として、ロイロノートなど)	事例を示すのには使いやすい。あまり頼るつもりはないが、活用はしていきたい。
71					